

人とともに 地域とともに 島根大学

*shimadai



広報しまだい
Shimane University



[特集1] ダイバーシティへの取り組み

多様な人材が活躍できる
環境の実現へ

vol. **47**
shimadai

2021.1

[特集2] 共同研究講座の今

多様な人材が活躍できる環境の実現へ ダイバーシティの取り組み



芹川助教。

「誰もが働きやすく学びやすい大学」を目指し、令和元年6月に「ダイバーシティ推進宣言」を行った島根大学。ダイバーシティの機運が高まる昨今、島根大学における取り組みについて、学長特別補佐（男女共同参画担当）の河野美江教授にお話をうかがいました。

男女共同参画に係る これまでの様々な活動

近年、国内でもよく耳にするようになった「ダイバーシティ（多様性）」。性別だけでなく、国籍や年齢、身体の障がい、文化や宗教、価値観などの違いを背景とした差別をなくし、社会の全構成員の個性が尊重され、活躍できる環境づくりが求められています。そのような状況下において、島根大学では次世代に活躍する人材育成の場

vol.47 CONTENTS

- 留学生・留学体験紹介 09
- 島根大学の研究・地域貢献事業紹介
- ①人間科学部 高橋 哲也 教授 11
- ②総合理工学部 酒井 達弘 助教 13
- ③生物資源科学部 高原 輝彦 准教授 15
- 社会で活躍する卒業生 17

- 地域と交流する学生 19
- しまだい便り 21
- しまだい's サークル 24
- 島根大学支援基金より 25
- 読者プレゼント 25

企画・制作
株式会社メリット
デザイン
有限会社node
タイトルロゴデザイン
松陽印刷所デザイン室 森脇 祥吾

ダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ(牽引型)



連携機関である松江高専の

女性研究者比率と男女別研究者数

	16年度	27年度	28年度	29年度	30年度	R1年度	R2年度
女性研究者比率(%)	11.5	18.2	18.7	20.5	21.7	21.9	21.9
研究者数(人)	男性	618	637	644	645	636	616
	女性	80	142	148	166	176	160

(各年度5月1日現在の数値。原則、特任(フルタイム)を含む)
平成16年度数値は「平成22年度地方から開く女性研究者の未来in島根」より
それ以外は、「国立大学における男女共同参画の推進状況に関する調査(国立大学協会)」より

として、教職員から学生までが力を存分に発揮できる環境づくりを進めています。その中心的な役割を担うのがダイバーシティ推進室(旧:男女共同参画推進室)です。島根大学では、平成20年に文科省の科学技術振興調整費「女性研究者支援モデル育成」プログラムに採択されたのを機に、男女共同参画推進室を設置。「平成16年度、島根大学における女性研究者の比率は11.5%でした。全国的な平均から

人とともに 地域とともに 島根大学

*shimadai

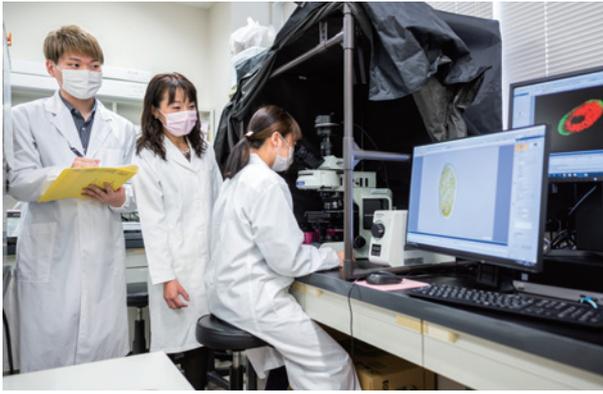
広報しまだい
Shimane University

2021.1 vol.47

[特集1] ダイバーシティへの取り組み 01

[特集2] 共同研究講座の今 05

[特集3] しまね大交流会2020 07



ロールモデル集にも登場した生物資源科学部の児玉准教授と研究室の学生たち。

見れば高い数値ですが、男性に比べれば圧倒的に少ない状況でした」と河野教授が説明します。育児と研究の両立を支援するため、出雲キャンパスにおける学童保育施設の設置などハード面の整備に加えて、出産や育児、介護などで研究時間の確保が困難な教員のための研究サポーターを配置するなどの各種取り組みを講じてきました。また、女性研究者の積極的採用を行い、令和2年度には女性研究者の比率は21.9%にまで上昇しました。

女性研究者の活躍促進 事業採択で取り組みが加速

一連の女性研究者支援の動きを加速させるきっかけになったのが、令和元年9月に採択された「ダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ（牽引型）」です。この事業は女性研究者のライフイベントに配慮した研究環境の整備や女性研究者の研究力向上のための取り組み、女性研究者の積極採用や上位職への積極登用など、女性研究者の活躍促進に向けた取り組みを支援するものです。令和元年10月には、男女共同参画推進室を「ダイバーシティ推進室」に改称。島根県立大学、松江工業高等専門学校、米子工業高等専門学校と連携し、「イノベーションを促進し山陰の地に活力を取り戻す」ことを共通の目標に、ダイバーシティ研究環境の実現に取り組んでいます。

「女性が活躍するためには、まず、研究職に進む女性を増やすことが必要です。理系の進路に進

む、大学院に進学する、研究者になる…、その過程で女性の割合はどんどん減っているのが現状です」。理系進路に進む女子学生を増やすため、山陰等で理系進路を選択し、社会で活躍されている方を紹介したロールモデル集を作成しました。また、理系進路選択を促す活動には、学生も参加しており、理系の女子大学生・大学院生からなる「SUN IN Girls」を結成し、小・中・高校生向けの理系クイズ企画や、小学校で理系分野に楽しく触れてもらえるような

VOICE

連携機関の声

松江工業高等専門学校
環境・建設工学科

芹川 由布子 助教



異分野研究から見出せた解決策 得られた様々な【ご縁】を大切に

私はこれまでに「ご縁ネットミーティング」「研究マッチングイベント2020」に参加させていただきました。島根に来て間もなく、研究者との繋がりがほとんどなかった私にとって、このような機会は大変貴重なものとなりました。一見関連性のないように思える研究の中にも、自身の研究と共通した課題が多くあることに気づき、異分野連携の重要性を感じることができました。現在行っている防災に関する研究は、土木の知識はもちろんのこと、心理学や医学・居住学といった人に関わる部分が多くあるため、このようなご縁を大切に、研究者や地域のみなさんとの繋がりを絶やすことなく活動をしていきたいと考えています。



ロールモデル集

全ページはこちらから
ご覧いただけます。





昨年11月に持田小学校で行われたSUN'INGGirlsプロジェクト。牛乳パックで家を作るワークショップの様子。

ワークショップを行うなど、学生の目線に立った活動も積極的にを行っています。

その他にも、女性研究者とのネットワークも強化する目的で「SUN'ING」ご縁ネット（研究者ネットワーク）を設立し、様々な分野の研究者が参加し、定期的に情報交換を行っています。

誰もが活躍できる大学に 取り組みを地域にも波及

女性研究者育成に注力する一方で、「ダイバーシティ」とは女性だけを指す言葉ではありません。女性に限らず幅広い層にも目を向けることが大切だと河野教授は言います。「LGBTや障がいの

相談(カミングアウト) = 信頼

- 相談・カミングアウトを受けたときは、
→ 本人がどのように生きたいか決めることが大切。
→ いつも通り友だち、家族等として接してあげると良い。
- 相談をすることは大きな勇気がある。
→ 「相談してくれてありがとう」という言葉がけや態度があると当事者は救われる。
- 相談を受けて、聞き手も悩むことがある。どのように接したらいいか、分からないときや不安な時は保健管理センターへ!
- 性のことで悩んでいる人も保健管理センターへ!

昨年10月にオンライン開催された山口県立宇部総合支援学校教諭・今真樹氏による「多様な性と生」の公開授業。

ある方など、マイノリティが抱える問題というのは非常に複雑です。普段は保健管理センターに在籍していますが、そういった相談を受けることもあります。誰もが快適に過ごせる環境づくりに取り組むことが大学の重要な役割なのです」。ダイバーシティ推進室では、年に1回LGBTに関する講演会を実施して意識啓発を行っています。ほか、「多目的トイレ」について、LGBTや障がいのある方、小さいお子さん連れの方など誰もが使えることを分かりやすく表示するため、「誰でもトイレ」のサインを学生と一緒に相談しながら進めているところ。また、学内でのヒアリングで英語の必要性を実感

VOICE

理系学生の声

総合理工学部
建築デザイン学科 4年

小嶋 優実さん



興味のきっかけは 意外と身近なところにある!

所属する研究室に持田小学校でのワークショップの話があり、その時に「SUN'INGGirls」の存在を知りました。私はもともと理系科目が苦手だったのですが、レゴブロックが好きで空間に興味を持ってから、建築デザイン学科を目指してあきらめずに勉強をしてきました。そういった経緯もあり、チームに参加することにしました。卒業論文の執筆が落ち着いたら、SUN'INGGirlsが定期的に行っている小中高校生向けの理系クイズ企画などにも参加したいです。私がそうだったように、理系分野に興味を持つきっかけは大小問わずいろんなところにあると思います。そのきっかけを少しでも提供できたらと思っています。

している教員が多かったことから、教員向け「オンライン英語カフェ」や「英語論文の書き方セミナー」なども開催しています。

島根大学や連携機関を中心に広がりを見せるダイバーシティの取り組みですが、その枠内で終わるのではなく、地域に広げていくのも大学の果たすべき役割だと河野教授は話します。「潜在しているけれど大きな力を持っている人はたくさんいます。みんながそれぞれの個性や力を発揮できるような土壌を作っていかなければいけません。それと同時に、大

学が一番の使命は人材育成ですから、ダイバーシティの意識を持つた人材を育て、社会に輩出していきたくて考えています」。多様性を認める社会の実現に向けて、本学と連携機関、企業、行政が連携しながら、引き続き取り組みを進めていきます。



学長特別補佐(男女共同参画担当)・河野美江教授

ストレス社会の救世主を目指す

共同研究講座を設置している島根大学医学部と東京のバイオベンチャーが、ストレスの量を尿検査で解析できるマーカーを開発しました。ストレスによる潜在的な負荷を数値として可視化できるため、精神疾患の発症予防にもつながると期待されています。

尿検査から解析できる ストレスマーカーを開発

ストレスフルな現代社会。科学技術の発達や価値観の多様化などで、求められる環境が著しく変わる中、生きづらさを感じる人は少なくありません。現在、従業員50人以上の事業所ではストレスチェックが義務付けられるなど、ストレスへの対応は社会の責務にもなっています。しかし現行のストレスチェックはアンケート方式のため、客観的な評価がしにくいのが

難点でした。そこで島根大学と、株式会社RESVO（東京都大田区、以下R社）の共同研究講座が開発したのが、尿検査によるストレス量の解析です。

ストレスが増えると、コルチゾールというホルモンが増加することは以前から知られていました。このホルモン増加が体内でさまざまな反応を引き起こした結果、尿内のバイオピリンという分子が増えます。共同研究講座では、バイオピリンの値に免疫マーカーの判定を加えることで、ストレスの増加具合を数値化する手法を確立しました。従来のストレスマーカーに比べ、測定精度が優れている



インタビューに答える大西特任教授

のが特徴です。既にR社から研究用として販売されていますが、価格などの課題解決を進め、最終的には市販化を目指しています。R社の社長も務める、大西新・医学部特任教授は、「検体数が増えればもつと低価格で気軽に使ってもらえるはず。働く人が抱えるストレスの早期発見につなげていければ」と話しています。

大学とベンチャーの連携で 研究開発や実用化が加速

共同研究講座設置のきっかけは、ベンチャー立ち上げ後、資金繰りやラボの確保に悩んでいた大西特任教授に、島根大学がオファーしたことでした。大西特任教授は大学院や国立研究機関で長年、精神疾患の発症メカニズムや診断方法などについて研究。その研究成果を検査薬や治療薬として実用化し、患者を救おうと2015

RESVOとは？

(株)RESVO

は、精神疾患の解決を狙い、発症前後の予防や治療を可能にする研究開発を進めているバイオベンチャー。既に、免疫障害性統合失調症のバイオマーカーや、精神疾患発症危険状態の診断用マーカー（尿検査でストレスの増加を解析できるマーカー）などの特許を取得しています。現在、各種精神疾患の治療薬も開発中。バイオマーカーを活用して適切に治療できる環境を整えることで、難病に苦しむ患者を救うことを目指しています。



共同研究講座とは？

島根大学と民間企業などの外部機関が、共同で研究を行

共同研究講座への期待

苦しんでいる人に希望を

「論文を書いているだけでは患者は救えない」。ある映画の中で研究者に向けて言われた一言が、ベンチャー創設のきっかけになりました。大学との連携で研究が進み、検査薬や治療薬の実用化が視野に入ってきました。ストレスマーカーの普及で精神疾患に対するさまざまなハードルが下がれば、もっと生きやすい社会になるはず。同時に脳神経系の難病患者さんを救う治療薬も確立し、苦しんでいる方々の希望になればと考えています。



株式会社RESVO代表取締役社長
島根大学医学部免疫精神
神経学共同研究講座 特任教授

大西 新

長年の研究生かし、社会に貢献

精神障害は、5人に1人が生涯に一度かかる病気だと言われています。免疫精神神経学共同研究講座では、既存の概念とは異なる新たな視点から、これまでの精神医学の常識を打破する画期的な検査薬や治療薬の開発が進められています。長年、島根大学医学部精神医学講座や人間科学部で研究されてきた成果を起源に、世界に向けて精神障害の負担をより軽くする手段を発見し、社会に貢献していけると期待しています。

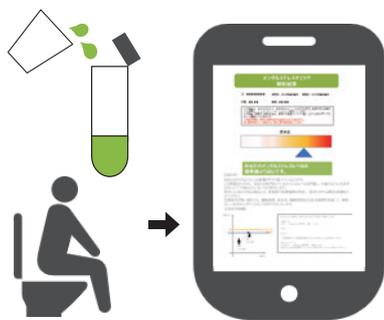


島根大学医学部
精神医学講座 教授

稲垣正俊

年、研究開発型のバイオベンチャーを創設していました。一方、島根大学医学部では、尿中のバイオピリンと精神疾患症状の相関性などの研究が進められており、互いにベストマッチなパートナーだったのです。2018年、大学内に講座を設置したことで、大西特任教授らは研究開発を存分に行う環境が整った上、R社は開発したマ

カーの営業に二層力を注げるようになり、臨床と連携し、患者の協力を得ながらデータを集めていくことも可能になったのです。「僕らが持っていたのはダイヤの原石。大学と連携することで磨き、ダイヤモンドの輝きになりました」と大西特任教授。マイナス80℃でなければ分解してしまう尿中バイオピリンを常温もしくは



検査結果をスマートフォンで見られるシステム

は冷蔵で輸送可能な保存容器も開発済みで、将来的には大学内に設けた検査センターで出した結果を、利用者がスマートフォンで簡単に見られるシステムも整える予定です。共同研究講座では、尿検査で解析できるストレスマーカーの開発のほか、体質性黄疸に由来する統合失調症の治療薬や、免疫障害性精神疾患の治療薬の研究開発も進めています。大西特任教授は、「精神疾患を引き起こす要因は、免疫障害や体質などさまざまです、その二つがストレスの増加です。ストレスに対する脆弱性は誰もが抱えています。マーカーを活用し、早期に原因を推定した上で適切なケアや治療を行っていただける社会にしたい」と熱く語りました。



共同研究講座設置記者会見の様子

うための制度の一つ。企業などから受け入れた資金を活用して、大学内に研究組織を設置し、大学と企業などの共通した研究課題について、対等な立場で共同して研究を行います。一定期間継続的に研究を行うことにより、当該研究の進展と充実に努めることを目的としています。

特集3

しまね大交流会2020をオンラインで開催

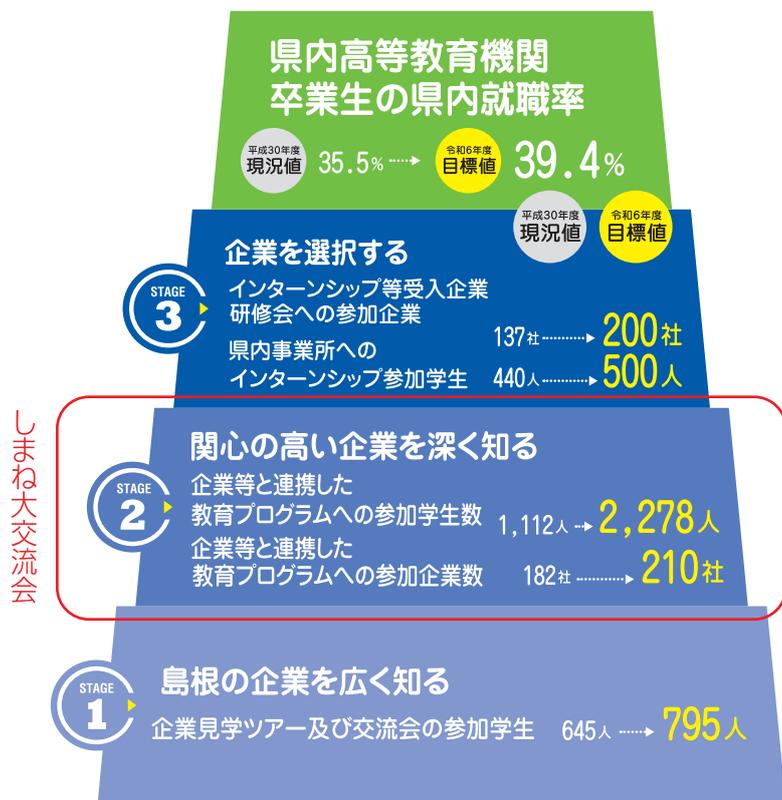
コロナ禍における新たな人材育成と交流の形

11月7日(土)、8日(日)の2日間にわたり「しまね大交流会2020」が開催されました。6回目となる今回は、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、初となるオンラインで実施しました。

地域で活躍する
人材育成を目指して
島根の産官学が協働

この事業は、島根大学や島根県、県内経済団体等の12団体が参画して構成される「しまね

しまね産学官人材育成コンソーシアムにおける 地元就職率向上のための取り組み



産官学人材育成コンソーシアム(事務局は島根大学地域未来協創本部)の主催で行われました。このコンソーシアムは、昨年度まで県内の高等教育機関と地域企業等が連携して教育プログラムに取り組んできたCOO+事業(文部科学省による「地(知)の拠点大学による地方創生推進事業」を継続、発展させるために設立されました。地域で活躍する若者の人材育成と県内定着を目的とした取り組みを実施することで、地域の持続的発展を目指しています。

「しまね大交流会2020」は、この取り組みの一環。特に若者(学生・生徒)が地域の企業や行政、NPO等を通じて社会の在りようを学び、学生自身の研究や学びを広く発信すること、島根県を中心とする企業や行政、NPO等が、それぞれの良

What's

しまね大交流会とは

主に島根県・鳥取県内の大学生・中高生の地元就職や進学を幅を広げ、地域への若年層の定着を図るキャリア教育の一環として、平成27年度から毎年くにびきメッセで開催しています。昨年度は島根・鳥取の企業や行政、大学研究室等200以上のブースが展示し、学生や生徒を含む2800名以上の来場がありました。コロナの影響で、今年は初めてのオンライン開催となりました。



2019年のしまね大交流会の様子



未来洞察大ワークショップの様子

さや特徴的な取り組みを発信することで、学生・生徒にとって魅力ある生き方や働き先を知っていただくことを目的としています。また、多様な出展者同士の交流によるイノベーションの創出を図ることを目指しています。最終的にはこの取り組みをきっかけとして、県内の高等教育機関の卒業生が島根県内で活躍することを目指しています。

オンラインの特性を生かした若者と地域の相互理解の場を

こうした目的の元、開催された「しまね大交流会2020」は、新型コロナウイルスの感染が

拡大する状況もあり、時代に即した新たな形態となりました。従来の「対面イベントをオンラインで実施する」という考え方はなく、「オンライン用の新たなイベントを作る」という発想で実施しました。あらかじめ8回にわたるオンライン（ZOOMを使用）に関する研修を受講した企業等がオンライン上で90のブースを出展。また、参加者は事前登録した大学生や高校生が延べ約1400人で、それぞれ予約したセミナーや企画に参加して質問を投げかけるなどのやりとりが行われました。オンライン上での個人情報やプライバシーを守るために「OCANs」という予約システムも取り入れ、安心と安全が担保された状況で多くのイベントが開催されました。

遠隔地の人も参加できるとリアルとは異なるやりとりの特徴を生かしながら、今後増加すると見込まれるオンラインでの就活やインターシップ等にもこの経験を活かし、地域の人材育成に取り組みんでいきます。

VOICE

出展者 参加者 の 声



トップ金属工業株式会社
大林 陸さん

本番2ヶ月前の研修、不慣れな操作ながらにブレイクアウトルームに、…。1秒、2秒、3秒。誰から話していいかわからない時間、無表情な大人達の沈黙。でもたくさんの研修のお陰で当日は、自然とリアクションも大きく、いろんな初めましての学生と楽しい時間を過ごすことができました。



松江ニューアーバン
ホテル フロント
土江歩美さん

今年はPR動画を見てエントリーしていただくことで、昨年に比べ当社に興味を持ち、熱心に聞いてくださったように思います。また、LIVEで仕事の現場を伝えるため、私たちも緊張感がありましたが、学生の皆さんのリアクションが励みになりました。皆さんの今後の就職活動に繋がれば光栄です。



島根大学 法文学部
言語文化学科 2年
三好亜美さん

今年はオンラインでの開催だったので、会場でなんとなく興味を持ったブースを見学するということはありませんでしたが、各企業が趣向を凝らしておられて面白かったです。私は文系ですが、タイトルに惹かれてIT企業のセミナーに参加しました。オンラインならではの新たな経験ができました！



島根県立大学
総合政策学部
総合政策学科 2年
増田直記さん

昨年は参加者として、今年は発表者として大交流会に参加しました。今年はオンラインの開催となりましたが、移動に時間や費用をかけずにこの規模のイベントを開催できたことは凄いことだと思います。学生にとっては、島根で活躍する社会人の皆さんとコロナ禍で交流できる貴重な機会でした。



松江工業高等専門学校
環境・建設工学科 4年
飯塚 凜さん

コロナウイルスの影響で就活に関するイベント等が例年より少なく不安を感じていましたが、このような形で様々な企業の方のお話を聞く機会をいただき、不安が軽くなりました。対面式と比べデメリットもあるかもしれませんが、今後オンライン面接等も増えると思うので非常にいい経験になりました。

国境をこえてチャレンジする学生たち

留学生・留学体験紹介

Shimane ∞ World

現在島根大学では、世界29か国・地域、104の大学・機関と交流協定を結んでいます。毎年、多くの島大生が海外へ留学し、多くの留学生が海を渡ってやってきます。留学経験のある学生に、留学体験について伺いました。



FROM



出身地

インド

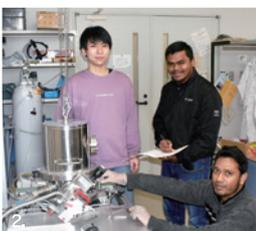
ラジ・ディーブ

RAJ DEEP さん

(自然科学研究科 理工学専攻 博士前期課程 2年)

国際色豊かな研究室で
実践を通じて学びを深める

島根大学と交流協定を結んでいるコーチ理工大学に在籍していました。3年の時、さくらサイエンスプランで島根大学を訪問し、物理・マテリアル工学コースの藤田教授の研究室で実験を中心に様々な体験をしました。インドの授業は座学が多く、実践の機会が少ないです。島根大学では様々な実習や実験ができること、また、日本の文化も気に入ったので、卒業後に島根大学の大学院に入学しました。現在、初来日の時に使い方を習った実験装置を使い、酸化亜鉛ナノ粒子を用いたLEDの研究を行っています。研究室には留学生も複数人在籍し、とてもインターナショナルな環境です。チームで作業を進めることで、効率よく研究が進められるのはとても良いと思います、母国に戻ってもぜひ取り入れていきたいと考えています。



1.松江市の由志園で、牡丹の館に飾られている和傘とともに。2.研究室にはバングラデシュやマレーシアからの留学生も。亜鉛を蒸発させる機器を使って酸化亜鉛ナノ粒子を生成します。

TO



タイ (タマサート大学)

留学先



やました みなみ
山下 魅七海 さん
(法文学部 言語文化学科 4年)



1.タマサート大学の留学生たちと旅行の計画を立てて、国立公園を訪れた際の一コマ。 2.大学指定の制服を着用。フォーマルウェアとして定期試験の際に着用が義務付けられていました。

自身を見直すきっかけに

他国の友人から刺激を受けた

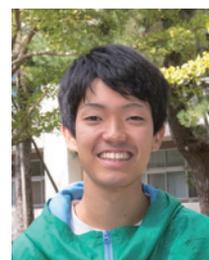
将来、東南アジア圏で働きたいと考え、大学2年の時にチェンマイへの短期研修に参加、もっとタイについてじっくり知りたいと思い、8か月間留学しました。タマサート大学は約600名が留学生という国際色豊かな大学でした。他国の学生は、授業中に積極的に質問し、その質問をきっかけに他の学生とディスカッションがはじまるなど、とてもアグレッシブでした。授業以外で様々な国の学生と話す中で、自分自身の自国に関する知識の少なさを痛感するとともに、答えられないことに悔しさを感じました。いろいろなことを知ろうとする意欲や、いろんな視点で物事を考えることの大切さに気づきました。卒業後は中国や東南アジアを対象にした物流関係の企業に就職が決まっています。留学での気づきを仕事に活かしていきたいです。

TO



ポーランド

留学先



たなべ けんじ
田部 憲司 さん
(法文学部 法経学科 4年)



1.現地では一大イベントであるクリスマスイベントの一コマ。インターンの一環で企画運営をサポートしました。 2.コペルニクス大学の友達や日本学科の先生と。

現地イベントを企画サポート 将来は島根と海外の懸け橋に

在学中から地域活性化サークルや海外交流サークルで様々な活動を行ってきました。島根と海外を繋ぐ仕事があったこと、他地域における地域活動を見たいと考え、約10か月間コペルニクス大学で学びながら、現地の観光局でインターンを行いました。現地の活動で最も印象的だったのは、クリスマスイベントのサポートでした。住民が積極的にイベント作りに参加し、楽しんでる様子を見て、住む町やイベントに誇りを持っているのだなと思いました。留学から半年、生活や言葉にも慣れ、これからという時にコロナが流行し、やり残したことが多く中での帰国となりました。現地との関係づくりはできたので、留学中に実現できなかった島根とポーランドを繋ぐようなイベントを、今後チャンスがあれば開催したいです。

抗菌・消臭・UVカットの 高機能繊維の研究開発で ヘルスケアを支援

茶殻や光触媒物質で
消臭抗菌素材を開発

健康志向の高まりなどでペットボトル入り茶飲料の需要が増加する中、茶殻が産業廃棄物として大量に廃棄されています。高橋教授は、茶殻に多く含まれているカテキンが抗菌・消臭などの機能を持っていることに着目。粉碎した茶殻を配合して機能性の高い紙を作製しています。

お茶の種類によって、抗菌効果に違いがあることも分かりました。さまざまな種類の茶殻を使って紙を作り、黄色ブドウ球菌に対する抗菌性を調べたところ、発酵させた茶種ほど、高い効果が発現。茶葉に含まれる酸化酵素の活性を

日本は全人口のうち高齢者が21%を超える「超高齢社会」を迎え、健康問題がより大きな関心事となっており、ヘルスケア関連の被服素材に対する期待も益々高まっています。人間科学部の高橋哲也教授は、抗菌繊維、消臭繊維、さらには紫外線より肌を守るUVカット繊維に関する研究を行っています。

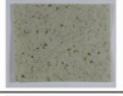


PROFILE

人間科学部 人間科学科
高橋 哲也 教授
たかはし てつや

総合化学会社の研究所から転職し、2000年から島根大学に勤めています。私たちを取り巻く「生活環境と被服との関わり合い」が研究テーマです。第49次南極地域観測隊(夏隊)の一員として昭和基地での観測も行いました。研究は常にロマンだと考えています。

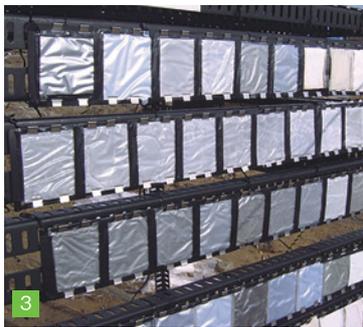
作製した茶殻配合紙

	緑茶	ウーロン茶	紅茶	プアール茶
0wt%				
20wt%				
40wt%				
60wt%				

2



4



3

1.南極・昭和基地に設置された高橋研究室の暴露架台。10種類のスキントイプのコラーゲン人工皮膚を作製し、それに様々な紫外線カット素材を貼り合わせて実験を行った。2.作製した茶殻配合紙の一覧。抗菌性と消臭性を併せ持つ優れたもの。3.紫外線カット素材と人工皮膚を積層した暴露サンプル。4. コラーゲン人工皮膚を用いた紫外線暴露研究が評価され、国内外のジャーナルに数報の論文掲載。公益財団法人スガウイザリング財団の「科学技術功労賞」などの複数を受賞。



1

抑えて作られる緑茶の茶葉より、発酵を途中で止めるウーロン茶、さらに完全に発酵させる紅茶の茶葉を配合した紙の方が、高い抗菌性を示しました。「発酵の過程で、カテキンが酸化されて生成されたテアフラビンという成分の働きによるものです」と高橋教授が説明してくれました。

茶殻を配合した紙は、アンモニアガスに対する消臭性も高いことから、民間企業との共同研究で紙おむつも製作。嫌な臭いを防ぎ、肌にも優しい製品が出来上がりました。

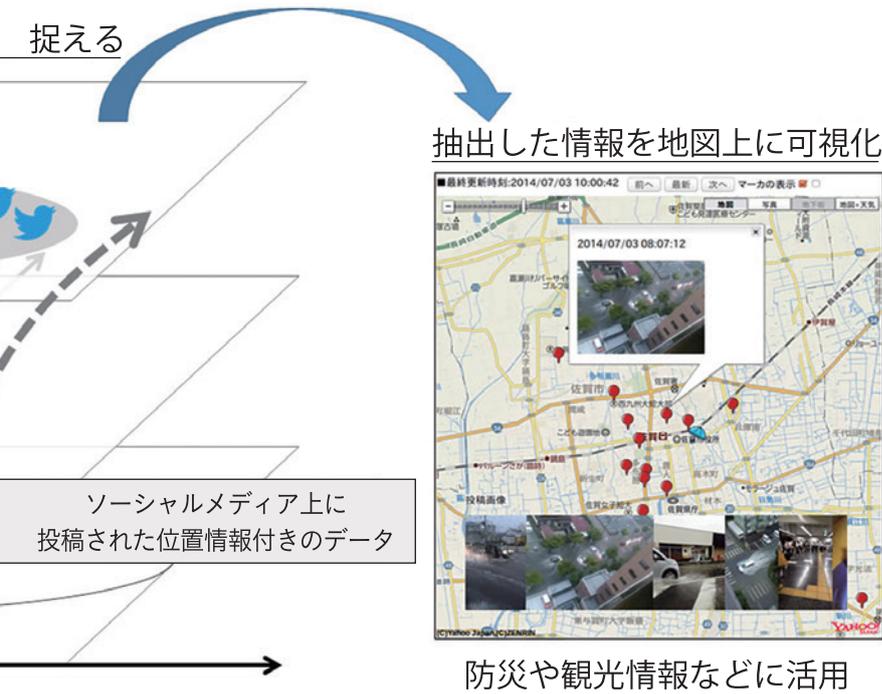
光のエネルギーによって高い酸化分解力を発現する光触媒酸化チタンによる抗菌性や消臭性などの機能についても研究を重ねています。酸化チタンによる光触媒作用は以前から知られていましたが、酸化チタンが繊維自体も分解してしまうことがネックでした。高橋教授は、特殊な酸化チタン粒子を用いることで、極細の繊維を安定して作製することを実現化。酵素処理によって抗菌性などの機能向上にも成功し、繊維メーカーと共同で、高い抗菌性や消臭性があるレーヨン製の下着も試作しました。臭いが気になる介護現場などでの

活用が期待されています。

UVカット素材の効果を南極・昭和基地で検証

長年、繊維関連の研究を重ねてきた高橋教授が、集大成的なテーマとして取り組むのが、環境問題に端を発した研究です。地球の周りで有害な紫外線をカットしているオゾン層は、フロンガスなどの影響で年々減少。緯度の高い南極上空では、既にオゾン層の濃度が薄くなるオゾンホールが観測されています。そんな現状を踏まえ、高橋教授が考えたのが、繊維の力で有害な紫外線をカットすることでした。

紫外線が人の皮膚に及ぼす影響を評価するための「コラーゲン人工皮膚」を開発しました。高橋教授は自ら南極に向き、UVカット素材を貼り合わせた人工皮膚で、紫外線ダメージの抑制効果も検証しました。「入浴時以外、人が接している最も身近なものが繊維。健康への影響も大きいのです」と高橋教授。繊維の可能性を広げる挑戦の数々は、人々のヘルスケアを支援する、なくてはならない研究として、今後も注目を集めそうです。



SNS上の膨大な投稿を 機械学習で抽出・分析 様々な事象の解明へ

災害発生地を地図上で
リアルタイムに発信

スマートフォン浸透によって、飛躍的に利用者が伸びてきたソーシャルメディア。文字情報だけでなく、静止画や動画、音声などもありリアルタイムで簡単に発信でき、誰でも共有・拡散できるのが特徴です。日時はもちろん、位置情報を示すデータ「ジオタグ」が付いているれば、情報が発信された場所もほぼ確定できます。酒井助教は、SNS上に投稿された位置情報付きのデータに注目。災害発生時にユーザーが投稿した被害情報を集め、機械学習手法を使って中身を自動的に分類しています。「膨大なデータの中から、まず大雨や大雪に関

インターネットを利用して誰もが手軽に情報を発信できるソーシャルメディア。国内でも数千万人ものユーザーが、身近な事象をリアルタイムで紹介しています。知能情報デザイン学科の酒井達弘助教は、SNSに上がった膨大なデータを活用し、防災や観光情報などに役立つ情報を抽出する研究を進めています。



PROFILE

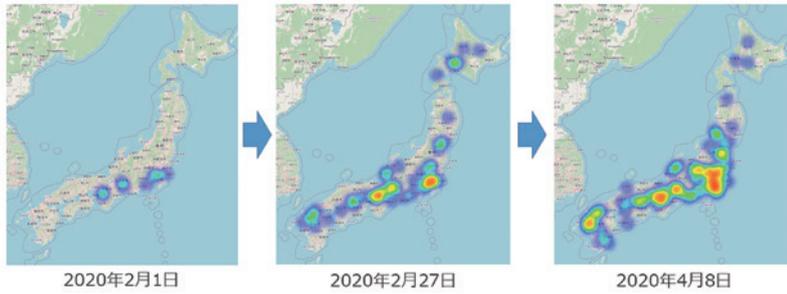
総合理工学部 知能情報デザイン学科

酒井 達弘 助教

さかい たつひろ

小学校低学年の頃から、パソコンでゲームや調べ物をしていました。機械学習手法を使えば、囲碁や将棋でも人間よりはるかに強くなったり、工場のラインで生産性や利便性を上げたりできます。すごいなあという素直な思いが、研究に取り組んだきっかけですね。

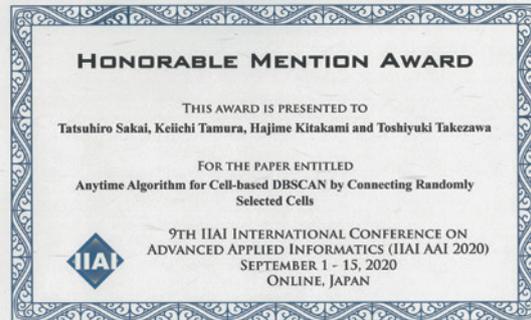
「コロナ」を含むツイートの投稿推移



2020年2月1日 2020年2月27日 2020年4月8日

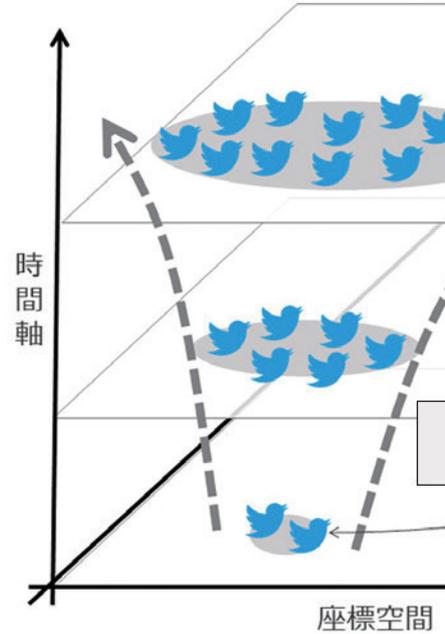
2

1.酒井助教の研究を図式化したもの。
2.「コロナ」を含むツイートの投稿推移。2月1日時点では限られた地域でのツイートしか見られないが、全国小中高校に臨時休校を要請した2月27日、そして緊急事態宣言発令翌日の4月8日には全国に拡大、ツイート数が増加していることが分かる。3.2020年9月に開催された情報科学分野の国際会議での表彰状。



3

時空間上での投稿の変化を



1

する画像やテキストだけを深層学習(ディープラーニング)によって取り出します。続いて、クラスタリングという手法を用いて、時間や場所などデータ間の類似度に基づき、特徴ごとにグループ分けします。抽出した情報を地図上に可視化することで、リアルタイムな防災に役立てられると考えています」と酒井助教。

2015年には、母校である広島市立大学の教授らと共同で、災害発生地を地図上で自動的に知らせるアプリを開発。大雨や大雪の投稿が、短時間に大量に寄せられた場所を、瞬時に明示するという仕組みで、現在も改良を重ねています。「ソーシャルメディアは実世界を反映していると考えれば、自然災害に限らずどんな事象も、データ分析で解明できるようなシステムを作るはず。それが目標です」と。雑誌に載っていない口コミ評価の高い飲食店を紹介したり、突発的な事件の発生をいち早く知らせたりすることもできると考えています。「課題は精度です。ただ、学習を繰り返すほか、手法の選択や使い方次第でも精度を高めていけるはずです」。

基礎・応用研究を並行し
地域への還元も目指す

昨年2月からは、感染が拡大している新型コロナウイルスに関する投稿データを分析。「コロナ」というキーワードが入った位置情報付きのツイートを集め、どこで投稿が多かったかということの時間による変化を調べています。「さらにユーザーが何に困って、何に関心がないかを抽出したり、分析したりできれば、何らかの形で人の役立つことができるのでは」。

酒井助教は、新しい手順(アルゴリズム)を考えて、処理を効率化したり、分析を高速化したりする基礎研究にも力を入れています。昨年9月には、クラスタリング手法において、従来の約10倍のスピードで結果を出せるアルゴリズムを開発したとして、情報科学分野の国際会議で「Honorable Mention Award」を受賞しました。基礎研究と応用研究を並行して進め、将来的には地元企業との共同研究なども視野に入れていきます。「研究成果をアプリやソフトで発信し、実際に人の生活に役立てられるようになるのが目標です」。

1リットルの水から 生物の生息状況を解明 可能性秘める環境DNA

水に溶け出したDNAから
生物の有無や数を調査

たとえば魚や両生類のオタマジャクシは、排せつ物や粘液などの形で自分のDNAを絶えず水中に放出しています。このように、環境中に存在する生き物の痕跡を「環境DNA」と呼んでいます。高原准教授が環境DNAを使った研究を始めたのは約10年前。琵琶湖などで発生していた、コイヘルペスウイルスによるコイの大量死に対応するプロジェクトメンバーに入ったのがきっかけでした。「ウイルスは目に見えないため、湖水を採取して調査。するとウイルス以外に様々なDNAが存在することが分かりました。以前から、ウイルスや微生物に対しては、水や土壌から調べる手法

池や湖、河川に、どんな生物がどれくらい存在しているか考えたことがあるでしょうか。生命科学科の高原輝彦准教授は、魚などのフンやウロコなどから水中に溶け出した、DNAのかけらを利用して生物の生息状況を調べています。わずか1リットルの水を汲むだけで調査できる画期的な手法です。



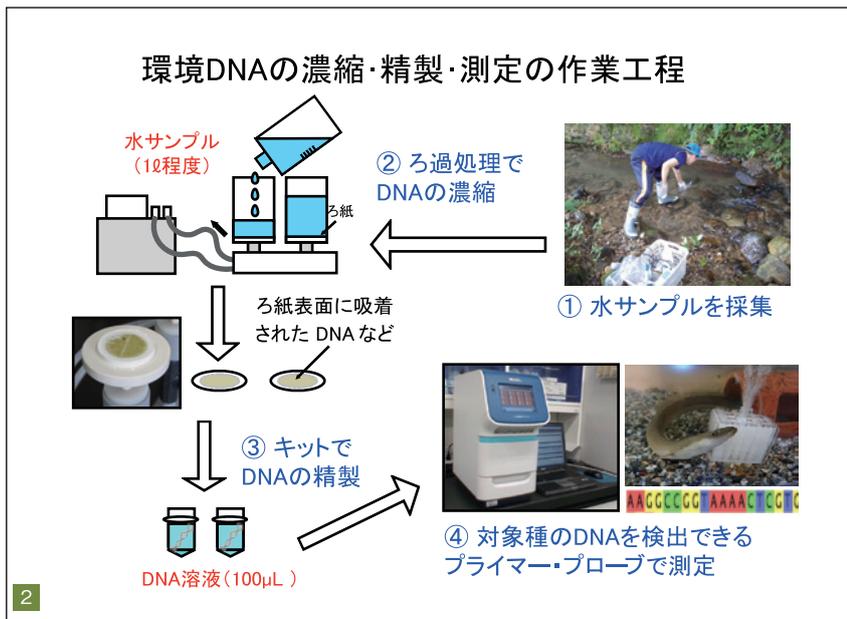
PROFILE

生物資源科学部 生命科学科
高原 輝彦 准教授
たかはら てるひこ

オタマジャクシが、敵がいる時だけ尾の形や体の色を変えたりして生き残ろうとする姿に魅せられたことがきっかけで、生物の研究を続けています。子供の頃から、仮面ライダーなどの変身ヒーローが好きで、アゲハチョウを幼虫から羽化させたりしていました。変身は、男のロマンです(笑)。



1



2



4



3

1.島根大学で初めて卒論指導をした学生とともに、宍道湖でヤマトシジミを調査する高原准教授(左)。2.環境DNAの一連の作業工程を示した図。採水からおおよそ半日で結果が出る。3.まつえ市民大学の講座で環境DNAの研究について講演する高原准教授。4.オタマジャクシの研究には数が必要のため、カエルをついで飼育し、卵を孵化させて研究に利用。

が使われていました。しかし当時、魚などのマクロ生物から溶け出したDNAの調査は国内外でもほとんど行われていませんでした」。

高原准教授からはまず、水槽にコイを入れ、その飼育水からコイのDNAを検出。小さな池や琵琶湖の内湖においても同様の結果が出たため、共同研究者とともに論文を発表しました。「コイがいるとDNAも出るといふ基礎的なことが確認できた上、個体数が多ければDNA濃度が高くなることを国内で初めて明らかにすることができました。従来野外調査では、生物を捕まえるのが主流でしたが、危険や労力を伴い、捕獲も困難でした。しかし、水を汲むだけで、存在の有無や量まで推測できることが分かりました」。

宍道湖中海で経年調査 美しい湖沼を守る

採取した水をろ過し、ろ紙表面に付いた物質からDNAを精製。それをPCR法(特定のDNA領域のみを増幅させる技術)で分析します。増幅の際には、DNA合成の開始点として機能する、その生物種固有

の「プライマー」が必要です。高原准教授は島根大学に赴任した2015年以降、宍道湖と中海を中心に県内の水産資源を調査。近縁種と比較しながら、ヤマトシジミやニホンウナギ、シラウオなどのプライマーを開発しました。

2つの湖では計14地点で毎月水を採り、中長期的な研究も進めています。「宍道湖で問題になっている水草の大発生には予兆があるかもしれない。予兆から原因が分かれば対策を練れる可能性があります」と高原准教授。島根の豊かな環境の保全も目指しています。

水を採取するだけで調査できるため、北海道から奄美大島まで全国で、現地の人の協力を得ながら、さまざまな生物の環境DNA研究を実施。ヌートリアなどの哺乳動物や、島根県立浜田高校の高校生と一緒に取り組んでいるハッチョウトンボなどの昆虫も研究対象です。「継続的に多くのデータを集めることで、健全な生態系の維持や環境保全を考えていくことができます。事前に魚の分布などが分かれば、漁業支援にもつながるかもしれません」。未知の可能性を秘める環境DNA。国内外で技術革新を展開する最先端の研究から目が離せません。

社会で 活躍する 卒業生

A graduate of
Shimane University

No. 10

病理専門医

卒業後も様々な分野で活躍する島大OB・OG。その中から、山陰をフィールドに活躍する注目の人を紹介するシリーズ企画です。今回は、病理医として島根大学医学部附属病院に勤務する長瀬さんに、現在の仕事内容やそこに至るまでの道のり、今後の展望についてうかがいました。

Profile

長瀬 真実子 さん

島根大学医学部附属病院
病理学講座 器官病理学

島根県江津市出身。2007年3月に医学部医学科を卒業し、同附属病院で2年間の初期臨床研修を行う。初期臨床研修中には、ハワイのクィーンズメディカルセンターと神戸大学でも1か月ずつ業務を経験。修了後に、病院スタッフとして病理部に配属。その後、病理学講座の器官病理学に所属する。

病変を目でみて 正確な医療へと導く医師

「一般的にイメージされるような、患者さんと直接関わるお医者さん」とは異なる存在かもしれませんが」と話すのは、島根大学医学部附属病院で病理医として働く長瀬さんです。患者さんから採取した臓器や組織から顕微鏡標本を作製し、顕微鏡でみて病気を正確に診断していきます。長瀬さんが行う検査は、生検、手術材料、細胞診、病理解剖の4種類です。検査数は日によってまちまちですが、多い時で1日50件ほどの検査を行い、その結果を病理報告書にまとめて臨床側にフィードバックします。県内には病理部のない病院も多いため、附属病院の外来や入院患者さん以外で受け持つ検査も多いそうです。

「病気の現場が目で見られること」と、これが病理の面白さだと長瀬さんは話します。目で病気が見えるので診断名を付けることができるだけでなく、この病気ではやがてこのような状態になるといった予測も可能です。今後の治療方針にも関わる重要な情報を得ることができるため、病理医は臨床医

孫が島根大学に行くのを
楽しみにしています。

(島根県出雲市・70代女性)

大学は地域に貢献する
役割を求められており、
それを実践されているのがすばらしい。

(島根県出雲市・80代男性)



顕微鏡で1mm以下の組織を検査し、病理報告書にまとめます。

のための「ドクターズ・ドクター」とも呼ばれているそうです。「的確な病理診断をしてそれが患者さんの治療につながった時は、とてもやりがいを感じます。直接患者さんと接する機会はなく、病理報告書という紙を通じてではありませんが、患者さんの手助けができています」と

思うとうれしくなります」。

大学の講義が契機に 母校の大学病院で その夢を叶える

長瀬さんが病理に興味を持ったのは学部3年生の時でした。

「3年で病理学の講義が始まって、その時に病理の仕事があることを初めて知りました」。実習では、臨床病理検討会(CPC)に参加する機会も。CPCとは、亡くなられた患者さんのご遺体を解剖し、臨床医と病理医がカンファレンスの中で生前の疑問点や死因を検証していくものです。長瀬さんたちは組織標本を実際に見て、死因を考察したそうです。「病理の役割について知り、こういった患者さんとの関わり方もあるんだなと思いました。何より病気が目でみえることに興味を惹かれました。そこからはずっと将来病理に行きたいと思って勉強を続けていました」。その意志は卒業後も変わることはなく、同附属病院で夢を叶えました。

病理が対象とするのは全身の疾患です。必要とされる知識も膨大で、様々な症例を頭に入れておく必要がありますが、その分やりが

いも大きいと長瀬さんはいいます。また、出身大学の病院に勤めていることで、大学時代の先輩後輩、同期とも顔を合わせる機会があります。「いろんな相談もしやすい環境ですし、何より他の人が頑張っている姿を見ると、私も頑張らなければと励みになりますね」。

病理医としての 心構えを胸に刻み 後輩育成にも注力

長瀬さんが研修医の頃に、同講座の丸山理留敬教授から言われた忘れられない言葉があるそうです。「プレパラートの向こう側に患者さんの顔や苦悩を思いうかべて仕事ができる病理医になることが大切です」。長瀬さんにとってとても印象深く、今でもこの言葉を常に心に持ちながら、毎日の業務に励んでいます。

検査業務以外にも、学会で細胞診の症例報告を行うなど多方面で活躍している長瀬さんは、後輩の育成にも力を注いでいます。病院実習で各科をまわる6年生の指導を担当しているほか、3、4年生向けの実習や講義も担当しています。「私がそうだったように、講義や実習を通じて病理って面白いなと興



2018年11月にハワイで開催された学会発表の様子。昨年6月にはオンラインで開催された全国学会で、細胞診の症例発表を行いました。

味を思ってくれる人が少しでも増えたらと思っています」。

病理医は非常に重要な役割を担っている一方で、全国的に人数が不足している現状があります。「全身を診る必要があるためか、難しいというイメージを持たれているのかもしれませんが、でも実際には配属されてから勉強する機会はたくさんありますし、分からないことがあれば先輩の医師に相談し、教えていただきながら日々成長していける環境にあると思います」。病理医にしか分からない病変の情報提供を通じて、多くの患者さんの手助けをする、その病理医ならではのやりがいを伝え、自身の背中を追ってくれる後輩を増やすべく、長瀬さんの奮闘は続きます。

読者の声 Voice

広報しまだい
vol.46に
寄せられた声
をお届けします。

学生さんや卒業生が活躍されている記事を見ると安心します。
どんどん取り上げてほしいです。

(兵庫県東粟市・50代女性)

県西部に住んでいると島根大学の存在がやや遠くに感じます。
西部地域にもぜひ心を寄せてください。

(島根県益田市・70代女性)

古民家 を起点にした まちづくり



島根大学からほど近い持田地区。この地域にある築150年の古民家で、島根大学の教授、日本人学生、留学生の4名がシェアハウスをしています。古民家の住人である国際交流センターの青教授と大学院生の橋本さんにお話をうかがいました。

留学生に地域交流の機会を 持田地区での古民家暮らし

2017年、青教授と生物資源の学生の2名からシェアハウスが始まりました。「島大に来る留学生は、地元の人と交流したいと思ってくる学生が多いんです。でも、実際にはそういった機会がとて少ない。寮と大学の往復だけで終わるのではなく、地域の中に住んで、日本ならではの暮らしを楽しんでほしいという思いがありました」と青教授。かねてから交流のあった持田公民館の館長に相談したところ、学生が来てくれるならぜひ協力したいと、数年ほど空き家になっていた古民家を紹介してもらったそうです。これまでの住人は、留学生が9名、日本人学生が6名。留学や地域交流に意欲のある学生が多く、現在古民家に住む橋本さんも昨半夏にジャマイカから帰国したばかりです。

古民家では、これまでに様々な活動を行ってきました。フランス人の留学生の企画で、ボジョレーを飲む会を開いた時には、持田地区の住民をはじめ約30



名が集まりました。また、持田地区をテーマにした映画制作では、留学生も映画に出演。撮影前には地域の子どもたちと演技練習もしました。「イベントに限らず、近所の方がお米や自家製パンをおすそ分けに来てくださったり、畑で作業をしていると声をかけてくださったりと日常的な交流も多いので、この地域で受け入れてもらっているのかなと感じます」と橋本さん。

ご近所さんと良好な関係を築いている一方で、古民家の活動はまだ認知度が低いのが現状です。「コロナが落ち着いたら徐々に活動を再開していきたいと思っていますが、こういった活動はこだけやっていてもなかなか広がっていくかない。他の地区で同じような活動をしている団体はたくさんあるので、ネットワーク的に繋がっていききたいですね。地域全体で交流の輪が広がっていけば、それはひとつのまちづくりの形になるんじゃないかなと思っています」。

VOICE

留学生や地域の方が交流を楽しんでくれていることをうれしく思います。実際に古民家に住んでみて、地域のことがより見えるようになりました。その地域で楽しく住むために何ができるのかについて常に考えながら、地域に寄り添っていきたいです。



自然科学研究科
博士前期課程 2年
橋本 友太さん

年代も出身も違う人たちが一緒に住むことで、学生にとって何かしら得られるものがあればと思っています。特に留学生は留学期間が決まっているので、限られた時間の中で可能な限りいろんな人と交流できる環境にしていけたらと思っています。



国際交流センター
青 晴海教授

古民家は自然環境に恵まれ、農地もあり、生活がとても豊かです。そんな場所で日本人学生と一緒に住み、地域の人と交流できることが嬉しいです。今後も地域の人と親しく交流し日本文化を学ぶと共に、バングラデシュの文化を伝えたいです。



鳥取大学大学院連合
農学研究科 博士課程1年
**ホサイン モハメド
イムルル**さん

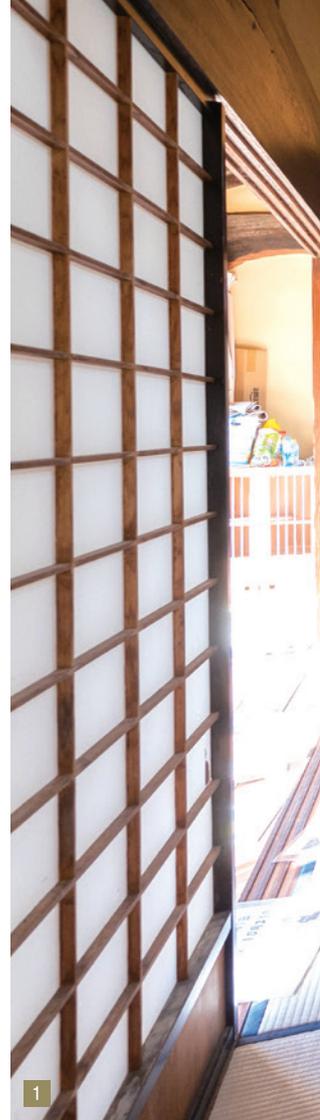
歴代の住人である日本人学生・留学生の愉快的な人柄と、ユニークな活動が人を呼び込んでいます。異文化、地域課題など様々なテーマを共に学べるのも魅力です。学生と地域住民の協働モデルとして、更なる盛り上がり期待しています。



こども地球教室協力者
清井 優子さん



1・2.10月に行った「こども地球教室」の様子。ハロウィンに関する話を聞いたあと、みんなでキャンドル作りをしました。3.持田地域を舞台にした映画「レヒアの風」撮影の様子。留学生も出演しました。4.古民家前の畑では野菜等も栽培。10月には留学生が集まり、芋の収穫をしました。



お互いの顔が見える関係を 新しいまちづくりの形を提案

「古民家を起点にしたまちづくり」。この活動は、「地方創生☆政策アイデアコンテスト2020」で中国経済産業局長賞に選ばれました。また、昨年8月の第15回マニフェスト大賞で、全国2484件の応募の中から、中国地方のエリア選抜(全138件)にも選定されました。選定一覧を見た橋本さんは、企業の大規模プロジェクトの中に混じった学生主体の古民家での活動が、ある種異質な存在に見えたといいます。「ここには目に見えない利害関係はないかもしれない。でも、この活動が認められたということは、今、社会が必要とされていることな

のかもしれないと思いました」。地方創生や地域活性化など全国各地様々な取り組みが行われていますが、地方の人口減少は今後避けて通れない問題です。ここでの活動は、留学生にとっては、日本のリアルな生活体験ができる場として、また、地域にとっては異文化交流のハードルを下げ、お互いの理解をより深めてくれる場として、さらに、大学にとっても、日常的に地域交流を行う拠点が地域の中にあることは、大学のブランド化にも繋がっています。これまではお互いの顔が見えず別々にあつたものを繋ぎ、人との繋がりを実感しながら生き生きと暮らせる、そんなまちづくりの一翼を担う存在として、今後の活動からも目が離せません。

しまだいい便り

大学の
旬な情報をお届け

島根大学が学内外問わず行っている多彩な活動の中から大学の今がわかる選りすぐりの情報をお伝えします。

TOPICS

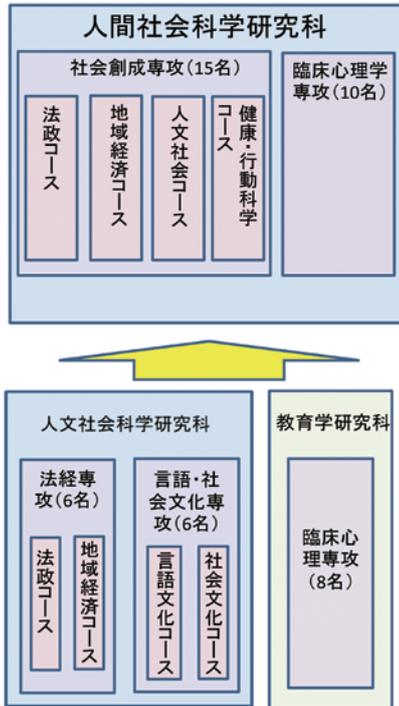
1

社会のニーズに応えられる人材を育成 大学院人間社会科学研究科が誕生

令和3年4月、島根大学大学院人間社会科学研究科(修士課程)が誕生します。「人間社会科学研究科」は、既存の人文社会科学研究科と教育学研究科臨床心理学専攻を再編して設置するもので、「社会創成専攻」と「臨床心理学専攻」の2専攻が置かれます。

この研究科では、「健康科学」「精神保健学」「アーカイブズ学(公文書をはじめとする記録の管理学)」が新たに開設されます。理論のみでなく、応用・実践力を身に付けられるカリキュラムを提供することが大きな特徴です。

なお、公認心理師国家試験受験資格、臨床心理士受験資格、認証アーキビスト資格取得が可能となるカリキュラムを提供します。



11月7日(土)、本学の学生32名が島根県立三刀屋高等学校1年生全クラスの生徒と、同時双方向オンラインで「授業大学」を実施しました。今回の「授業」は、「高校生に大学生と関わりながら将来を想像し、文理選択を行うための材料にしよう」ということを目的として実施しました。100分間で触れ合った大学生の姿を通して、高校生が自分の未来の姿を考える一助となることを期待しています。

俳句・川柳・短歌などの
コーナーも作ってほしいです。

(島根県出雲市・70代女性)

TOPICS

3

自分の未来について考えるきっかけに 三刀屋高校で「授業大学」を実施



本学と(株)河内との共同研究により製品開発したフェイスシールドを同社が販売する運びとなり、報道発表しました。開発したフェイスシールドは収納性が著しく高く、使用時にはフェイス面が湾曲して飛沫感染を十分にガードできる形状となります。本製品については、特許および意匠を共同出願済みです。販売に先駆けて、同社より本製品2000枚が島根大学に、1000枚が出雲市に寄贈されました。

今後も地域特性を活かした
研究・教育活動を期待しています。

(島根県松江市・70代男性)

TOPICS

2

共同研究により開発した環境にもやさしい製品 「一般フェイスシールドの製品販売



TOPICS

4

留学生と邑南町の住民が交流

11年目を迎える地域との交流プロジェクト

島根大学では、留学生と邑南町との交流プロジェクトを10年前から毎年開催しており、11年目を迎える今回は、オンライン会議システムを用いて、阿須那小学校と通訳ガイドネットワークとの交流を2回に分けて実施しました。

9月8日(火)、本学の留学生7名が、阿須那小学校の5・6年生11名と交流を行いました。留学生と小学生がクイズを出題しあい、お互いの国や地域について学びました。2回目の9月26日(土)は、本学からの留学生5名と、邑南町通訳ガイドネットワークからのメンバー8名が交流を行いました。通訳ガイドによる邑南町についてのプレゼンテーションの後、参加者は「英語グループ」と「日本語グループ」に分かれ、邑南町や農家民泊の話などで盛り上がりました。短い時間でしたが、コロナ禍において貴重な交流の機会となりました。

島根大学では、地域との継続的な交流に力を入れており、今回、オンライン交流会の機会に恵まれました。今後もこのような交流を通して、大学と地元地域のグローバル化に尽力して参ります。



TOPICS

6

熊本大学と学生交流セミナーを開催

次世代たたら協創センター



TOPICS

5

「高のふもとに」を開催

旧制松江高等学校創立100周年記念展示

島根大学の前身校の一つである旧制松江高等学校(以下、旧制松高)が、令和2年で100周年を迎えるのを記念し、10月12月にかけて附属図書館と旧奥谷宿舎において記念展示を行いました。旧制松高時代の蔵書や教科書、備品(机、椅子)等を展示し、「談論風発を日々の生活の旨とした自由な校風」(日本マクドナルド創業者・故藤田田氏談)であったという当時の教育や学生生活の様子を振り返りました。

10月23日(金)、熊本大学から9名の学生と教員を招いて、島根大学において学生交流セミナーを開催しました。本学からは学生や教職員を含め30名が参加し、島根大・熊本大双方のグループが日頃の研究成果の発表と質疑応答を行いました。セミナー後、学生からは「とても緊張したが、修士論文に向け修正点が見つかって良かった」などの声が聞かれ、気づきや刺激を得た交流会となりました。

読者の声
Voice

広報しまだい
vol.46に
寄せられた声
をお届けします。

学生さんの活躍はよく分かりました。
一方、教授など教える側の活躍にも
関心があります。

(島根県松江市・70代男性)

島大生や卒業生の声を
アピールして、島根大学の
魅力アップに期待しています。

(島根県出雲市・60代男性)

分かりやすく紹介することを目的とした冊子です。多くの皆さまにご覧いただき、大学の研究をより身近に感じて頂ければ幸いです。



冊子「島根大学お宝研究」(特色ある島根大学の研究紹介) vol.14 を発刊しました。これは、本学が取り組む特色ある研究を皆さまに

TOPICS

8

特色ある研究を分かりやすく紹介

「島根大学お宝研究」vol.14 発刊

詳細はこちら(https://www.shimane-u.ac.jp/research/researchers/research_unique/)からご覧ください。QRコードからもご覧いただけます。



TOPICS

7

本庄総合農場産の生食用トマトが原料 トマトジュースを販売中!



本庄総合農場では、教育活動(実習)の一環として生食用トマト(品種「麗夏」)を栽培しています。

昨年度より、この生食用トマトを日南トマト加工株式会社で、無塩の瓶詰トマトジュースに加工していただき、販売しています。今年度は、従来の瓶詰トマトジュース(内容量720ml)に加えて、新たに飲み切りサイズでの瓶詰トマトジュースも製造、販売することになりました。内容量は80mlです。

詳細は、島根大学生物資源科学部附属生物資源教育研究センターHP(<http://www.ipc.shimane-u.ac.jp/ercbr/>)からご確認ください。QRコードからもご覧いただけます。



爽やかにした味わいで料理との相性も抜群!!
島根大学の芋焼酎 神在の里
 生物資源科学部神西砂丘農場で栽培されたサツマイモから誕生した「芋焼酎」
 ●神在(かみあり)の里(720ml)は化粧箱に入った2本セットもあります。
 ■神在の里の取り扱いお問い合わせは
島根大学生生活協同組合
 〒690-8504 島根県松江市西川津町1060 Tel0852-32-6242
<https://www.shimadai.coop/>

WE LOVE SUN-IN!
楽しい街づくり
 に貢献します
 Webはコチラ!
株式会社メリット 松江事務所
 松江市古志5-2-43 TEL.0852-23-2230 (月曜-金曜 10:00-18:00)
 本社 島根県松江市古志5-13-7 設立/1991年3月 ■採用支援サービスタウン情報誌の発行 ■求人情報サイト運営 ■広告代理業 他

広告募集
 広報しまだいで、企業・団体様等からの広告を募集します。
 島根大学企画広報課
 TEL: 0852-32-6603
gad-koho@office.shimane-u.ac.jp

TOPICS

9

高校と大学が教育・入試について意見交換 「令和2年度教育・入試懇談会」を開催



10月23日(金)に松江キャンパスで教育・入試懇談会を開催しました。今年度は新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、県内高等学校校長先生、学内教職員とも出席者を限定し、「県内高校生の進路選択と育成」をテーマとして意見交換を行いました。本学から何を発信するのか、高校生の「学びたいこと」とどのように繋げるのか、好循環が生まれるようにこれからも意見交換を重ねていきます。

読者の声
Voice

広報しまだいで vol.46に寄せられた声をお届けします。

大学主催のセミナー再開が待ち遠しいです。

(島根県松江市・60代男性)

回覧以外での広報誌の入手先が知りたいです。

(島根県出雲市・70代男性)

しまだい's サークル

Shimadai's Circle

各キャンパスでそれぞれの特色を生かして活動する島大生。運動系や文化系はもちろん、大学を飛び出して活動する団体もあり、活躍の幅は様々です。そんな各団体について、実際の活動内容を交えて紹介します。

松江キャンパス

ダンスサークル SCRUM



2.

1.現在の部員は1~3年生で60名ほど。ダンス経験者は1割に留まるそうです。コロナの影響でほとんどのイベントが中止になりましたが、例年は年に4回のステージがあり、それに向けて練習しています。2.活動は週に2回ですが、それ以外でも自主的にグループで集まるなど練習熱心なメンバーが多いそうです。

楽しむことに全力!ダンスを通じて広がる輪

新歓や大学祭のステージで圧巻のパフォーマンスをみせるスクラム。現在はヒップホップ、ロック、ジャズ、ブレイキン、ハウスなど7ジャンルがあり、各自好きなジャンルを選択して練習しています。かっこいい、面白いなどのような雰囲気踊るかを決め、選曲、振り付け、衣裳、演出まで約2か月かけて詰めていきます。「ダンスを通じて、学内だけでなく学外の幅広い年齢層の人と交流する機会があります。人との出会いが一番の魅力かもしれません」と部長の内藤さんは言います。山陰各地の様々なイベントで多くの人にパフォーマンスを見てもらうため、メンバー同士で高めあいながら日々練習に汗を流しています。



留学マネジメントを通じて積極的な交流を

学生自らが交換留学のマネジメントを行うIFMSA。受け入れ先の診療科・研究室から住居の調整まで、すべて学生が支援しています。「留学生は学生と交流する機会が少ないまま帰国してしまうことが多いです。IFMSAでは、留学生支援を通じた交流の機会がたくさんありますし、私たちにとっても日本にいながら疑似留学できるのが魅力です」と部長の野坂さんは言います。文化や宗教の違いから医療に対する考え方も異なるため、留学生の気づきによって気づかされることも多いのだとか。現在コロナ禍で主軸の活動が停止しているため、今後はオンラインを使った国際交流に比重を置いていくそうです。

出雲キャンパス

IFMSA- Shimane



1.



2.

1.過去には留学生との交流イベントも開催しました。写真は2019年、ハンガリーからの留学生に日本の手料理をふるまった際の様子。2.2019年のIFMSA-Japanのイベントに参加した際のーコマ。IFMSAとは世界で一番大きい医学生団体で、島根大学医学部は2012年に日本支部に加盟し、現在10名で活動しています。

島根大学支援基金より

島根大学支援基金では、皆さまからいただいたご寄附を地域や世界で活躍する人材育成のために活用させていただいております。何卒ご支援を賜りますようお願い申し上げます。

現物資産(不動産、有価証券等)によるご寄附も受け付けています。

島根大学支援基金は、現金以外にも「不動産」「有価証券」など、現物によるご寄附もお受けしております。

また、令和2年9月にはみなし譲渡所得税の非課税の特例承認を受けるための申請を行い、文部科学大臣の証明を受けました。当該証明を受けたことにより現物資産(不動産、有価証券等)を島根大学支援基金へご寄附いただいた場合には、従来より容易に「みなし譲渡所得税」の非課税承認を受けられるようになりました。

現物資産によるご寄附を検討されている方は右記連絡先へお気軽にご連絡ください。

※「みなし譲渡所得税」とは、個人が不動産、株式等の現物資産を法人に寄附した場合、寄附時の時価で譲渡があったものとみなされ、資産の取得時から寄附時までの値上がり益に対してかかる所得税です。



支援基金についての詳細は支援基金HPをご覧ください。支援基金パンフレットをご請求ください。支援基金へご支援いただける場合は、支援基金HPから手続きいただくか、支援基金パンフレットによりお願いいたします。なお、パンフレットはお電話でのご請求も承っております。

お問い合わせ先

島根大学総務課支援基金担当

TEL 0852-32-6015

Mail sienkk@office.shimane-u.ac.jp
https://www.fund.shimane-u.ac.jp/



支援基金HP

島根大学支援基金 寄附者一覧

島根大学支援基金は、皆さまからのご寄附を学生支援等に活用させていただき仕組みです。パンフレットは下記ホームページにも掲載しておりますが、郵送もいたしますので、お問い合わせください。

ご協力ありがとうございました。 ※令和2年7月1日～令和2年10月31日までに年度内寄附累計額5千円以上のご寄附をいただいた皆さま(五十音順・敬称略)

冠寄附

島根大学法文学部同窓会 法文学部同窓会基金(コロナ学生支援のため授業料減免補助)

法人等からのご寄附

島根電工株式会社 まるなか建設株式会社

個人からのご寄附

今西正樹	入江文字	青柳和仁	吾郷千恵	新井清市	荒瀬 榮	有馬毅一郎	石橋直樹	板村裕之	伊藤幹夫	居原田洋子	今川博子
小高良啓	鬼形和道	岩下義明	岩本秀俊	植田和昭	衛藤健治	大島和典	太田勝巳	大庭晃一	大浜誠一郎	岡田光弘	小郷 一
木村範明	木村雅一	尾原美和子	小丸雄司	加藤富之	加藤 満	神谷年洋	川本謙一	北川 翼	喜多村 正	吉川通彦	木村 猛
田坂郁夫	田中直人	熊澤 修	権藤誠剛	境 英俊	坂田正昭	坂根和志	佐々木祥子	清家 泰	千家充伸	高取謙次	高橋 順
西本光弥	野田 寛	田部 恵	恒松定幸	寺脇玲子	内藤富夫	長井敦司	永田まち子	永森志嗣	名取瑞樹	縄手雅彦	錦織洋之
丸田健一	三谷重信	濱田 徹	濱田 太	原田裕司	半谷重行	平田 栄	廣嶋清志	廣瀬昌博	藤尾めぐみ	藤本正昭	松浦良紀
渡辺俊一	渡邊正人	武藤哲也	棟石 均	本泉宗晴	安原 伸	矢野 健	山崎征爾	山下魅七海	行武禎一	横井昌治	吉見 顕

「新型コロナウイルス感染症に係る緊急学生一時金」へご寄附をいただいた皆さま

法人等からのご寄附

株式会社ALC

個人からのご寄附

塩月孝博	武田育郎	岩田 奨	内尾祐司	大畑修三	岡崎 望	小川澄男	金森好浩	菊田浩基	菊田里美	佐々木 一	佐藤利昭
		為石勝美	道坂洋治	中川 強	東川 豊	平井 孝	廣瀬昌博	松本敏一	村岡崇信	森山真梨子	寄藤信明

お問い合わせ/ TEL 0852-32-6015 (総務課 支援基金担当) https://www.fund.shimane-u.ac.jp/

※ご寄附をいただいた皆さまの中で、「HP等への掲載を希望しない」とされた方は、掲載しておりません。

編集後記

新年あけましておめでとうございます。

さて、今回の特集ではダイバーシティの取組みを取りあげました。本学では一昨年「ダイバーシティ推進宣言」を公表し、性別だけでなく、国籍、文化、信条などのダイバーシティを積極的に活かす視点をもった環境づくりを進めています。多様な価値観が共存する現代社会において、本学ではどんな取り組みをしているのか地域の皆様にも知っていただければ幸いです。

また、第8回目となる古代出雲文化フォーラムについて、今年はオンラインで開催します。(裏表紙をご確認下さい)昨年は新型コロナウイルス感染症拡大のため中止となりましたので、今回は是非たくさんの方にご覧いただきたいと思っております。本年も引き続きよろしくお願いたします。

投稿のお願い

「広報しまだい」は、島根大学と地域の方々との相互理解を大きな目的としています。島根大学から地域に情報を発信してほしいこと、地域の方々からの島根大学に関する話題、島根大学に対する要望、その他ご意見、ご質問などをお気軽にお寄せください。ご投稿お待ちしております。

投稿先

〒690-8504
松江市西川津町1060
島根大学 広報戦略室
TEL.0852-32-6603
FAX.0852-32-6630

E-mail gad-koho@office.shimane-u.ac.jp
HP https://www.shimane-u.ac.jp

こちらからもアクセスできます



PRESENT

ご意見をいただいた皆さまの中から抽選で5名様に、島大農場で収穫・加工した「大学番茶(1袋)」をプレゼントします。
※当選者のお知らせは発送をもって代えさせていただきます。
※応募締切/令和3年3月5日(金)必着





Toyama Medical and Welfare Group
湖山医療福祉グループ

水澄み会

採用に関するお問い合わせ先

TEL (0855) 32-2112 採用担当

E-mail mizusumi-saiyou@beach.ocn.ne.jp



新規事業

2022年3月 松江市で開設予定

水澄み会の運営事業

- ・介護老人保健施設
- ・特別養護老人ホーム
- ・ショートステイ
- ・通所リハビリテーション
- ・通所介護
- ・認知症対応型通所介護
- ・グループホーム
- ・小規模多機能型ホーム
- ・有料老人ホーム
- ・訪問介護
- ・居宅介護支援事業所
- ・サービス付き高齢者向け住宅(予定)

人と木を結ぶ
木造住宅の建築に欠かせない
合板の製造で、
国内シェア約30%を持っています。



NISSHIN
松江・浜田・境港を中心に
日本一のメーカーをめざしています。

日新ホールディングス 株式会社
〒690-0887 島根県松江市殿町 383 山陰中央ビル 4F
TEL 0852-33-7830
NISSHIN GROUP WEBSITE
<https://www.nisshin.gr.jp>

GLOBAL



高機能治具で モノづくり支援

しまだいOBも活躍中!

株式会社グローバル 出雲工場
出雲市小境町1700番8 TEL.0853-67-9030
<http://www.gl-b.co.jp/>



NSK
日本システム開発
〒690-0003
松江市朝日町480番地8
松江SKYビル3F
TEL:0852-28-7175
<https://www.nskint.co.jp/>



こちらからもアクセスできます

多彩な業務で
エンジニアリングを
極めよう!

—あしたへ、未来へ—
地域創造企業

私達は、ものづくり支援で、未来の扉を開く
あなたのベストパートナーとして一緒に輝きます。
<http://www.showa00.co.jp/>

株式会社 昭和測量設計事務所
求人のお問い合わせは 営業エリア：島根、広島、山口、鳥取、岡山
【益田本社】島根県益田市高津四丁目14番6号 【浜田事務所】島根県浜田市治和町832-11
TEL (0856) 23-6728 FAX 23-6573 【営業所】松江・川本

おかげさまで35周年
SHOWA





YANMAR

ディーゼルエンジン用部品/産業機械用部品
鋳物業材~加工完成・組立~貫生産

テクノロジーと信頼で『夢・希望・未来』を創り出す

ヤンマーキャステクノ株式会社

(本社・松江事業部)
〒690-0025 島根県松江市八幡町960番地 ☎0852-37-1355

(甲賀事業部・鋳造技術センター)
〒520-3233 滋賀県湖南市柑子袋360番地 ☎0748-72-0800

<https://www.yanmar.com/jp/about/company/ycat/>

荒れた森林を元気にしよう!

私たちは森林保全の輪を広げる活動を展開しています。



みんなを
を守ろう!

山陰合同銀行

東アジアと出雲

日本海をはさんで一衣帯水の関係にある出雲と韓半島・中国大陸。古代から、この海を通じて人・モノ・情報が往来してきました。今回のフォーラムでは、日韓の研究者が島根に集い、出雲と東アジアとのこうしたグローバルな交流について考えていきます。

考古学からみた韓半島南部と山陰、そして靉島遺跡

李 昌 熙 釜山大学校人文大学考古学助教授



1978年韓国釜山市生まれ。専門は韓国原史時代考古学、韓日交流、年代測定学。釜山大学校考古学を卒業し、釜山大学校博物館にて勤務した後、総合研究大学院大学文化科学研究科日本歴史研究専攻に留学（文学博士）。韓国の東国大学人文大学考古美術史学科・助教授を経て、2017年から現職。論文「環朝鮮海峡における土器の実年代からみた鉄器の出現年代—日本列島における鉄器の上限年代を考える上で—」『日本考古学』第35号、2013年など。

先史・古代出雲のなかの韓半島系文物

平 部 達 哉 島根大学法文学部社会文化学准教授



1976年大阪生まれ。専門は朝鮮考古学。花園大学、滋賀県立大学卒業後、木浦大学校考古人類学科、釜山大学校考古学に留学。釜山大学校考古学非常勤講師、専任待遇講師を経て、2013年から現職。著書「墳墓資料からみた青銅器時代社会」。

古代出雲の鉄と韓半島

角 田 徳 幸 島根県埋蔵文化財調査センター調整監



1982年広島県生まれ。島根大学文学専攻科修了。博士（文学）。専門：考古学。第6回日本考古学協会奨励賞受賞。著書「たたら製鉄の成立と展開」清文堂出版2014、「たたら製鉄の歴史」吉川弘文館2019年など。

東アジア世界のなかの古代山陰

大 日 方 克 己 島根大学法文学部社会文化学教授



1957年長野県生まれ。東京都立大学大学院人文科学研究科博士課程単位取得退学。博士（史学）。専門は日本古代史（奈良・平安時代）。主要著書「古代国家と年中行事」講談社学術文庫 2008年、「島根県の歴史」山川出版社 2005年、「松江市史通史編1 自然環境・原始・古代」松江市2015年、「出雲にきた渤海人」松江市ふるさと文庫 2019年、など。

古代出雲文化フォーラム

Forum on Ancient Izumo Culture

VIII

松江市上野江遺跡の鉄素材・鉄釜
提供：島根県教育庁埋蔵文化財調査センター

令和3年
3月1日(月)～
配信開始

参加費
無料
(申込不要)

オンデマンド方式による動画配信
島根大学動画サイト「島根大学チャンネル」にて配信
<https://www.youtube.com/user/ShimaneUniv>



出雲市山持遺跡の楽浪土器
提供：島根県教育庁埋蔵文化財調査センター



韓国 靉島遺跡 遠景



人とともに 地域とともに
国立大学法人
島根大学

島根大学企画部企画広報課
〒690-8504 島根県松江市西川津町1060
E-mail: gad-koho@office.shimane-u.ac.jp

TEL 0852-32-6603 FAX 0852-32-6630